



世界遺産登録に向けて

西三川砂金山(4) — 秀吉と西三川 —

松浪遊仁が西三川砂金山を稼いでいた16世紀中ごろ、この周辺は赤泊の地頭の本間三河守の領地であったとされています。「三河(川)」とは、赤泊の腰細の古名で、10世紀前期に編纂された『和名抄』には、佐渡三駅として「松崎(三河)雑太」が載っています。

天正17(1589)年6月、豊臣秀吉の裁可を受けた上杉景勝が佐渡を平定すると、西三川砂金山には、上杉家臣の大井田監物・富永備中が派遣されました。この時、秀吉は「西三川砂金山の儀は先例に任せ、伏見・大坂へ相納めらるるもの也」と命じています。

当時は国内統一が進み、秀吉の下には諸侯からの献上金が集まってきました。朝鮮出兵が始まった文禄2(1592)年、砂金山の本格的再開発で、大山祇神社が創建された笹川十八枚村から伏見城には、毎年砂金が3駄送られていました。このころ秀吉に献上された佐渡の砂金は、越後の鳴海金山に次いで2番目に多かったといわれています。

慶長3(1598)年、秀吉が

景勝を

120万

石に加増

して会津

に移封し

た逸話が、

明治25年

から「東

京日々新

聞」に連

載された

「想古録」

に記され

ています。



文禄2(1593)年に創建されたという大山祇神社

それによれば、秀吉から越後・佐渡の総石高を問われた景勝は、正直に200万石と答えると領地を召し上げられると考え、「80万石」と答えました。すると、「そちのような者が80万石では物足りなからう。代わりに会津を与える」となり、景勝は西三川砂金山や鶴子・新穂の銀山を失うことになったとあります。

◆市役所世界遺産推進課(金井就業改善センター内) ☎63-5136



ガイドと巡る旅

皆さんは、旅先で現地のガイドさんに見学地を巡ったことがありますか。見た事もない建物や自然、初めて食べる食材など、旅先には自分が知らない世界が広がっています。そこで案内していただけるガイドさんがいると、旅の楽しみが広がります。

ジオパークの事業を進める上で、ガイドと一緒に巡るジオツーリズム(小旅行)は、事業の中心となっています。世界のジオパークには、見ただけで圧倒される大地の景観美や、言葉がなくても感動できる見学地がありますが、日本のジオパークには、一見すると何の変哲もない地形や海岸線などに地球活動の証拠や痕跡が残されています。

この見学地を人々の歴史や営み、そして大地の恵みと関連付けながら、案内してくれるのがジオパークガイドの皆さんです。

言葉にすると簡単なようですが、昨年発足した「佐渡ジオパークガイド協会」に所属する認定ガイドさんたちは、参加者いかに楽しんでもらえるか、毎月1回は研修会を開きガイド力の向上に努めています。平成26年12月1日現在、20人の認定ジオガ

ジオパーク、推進日記

45

イドさんが、昨年、島内の集落行事や公民館事業などの参加者や島外一般観光客など800人余りの方々を案内しました。ただ、見学地を案内するだけではなく、安全面や船の出発時間などにも配慮しながらガイドをすることが求められます。



専門的な解説者とは違い、一般の人の目線に立つて紹介してくれるガイドの話を知ると、学問とは一味違うジオパークに親しみを覚えると思います。一度、ガイドさんと一緒に島内を巡ってみてはいかがでしょうか。身近な景色に今まで知らなかった新たな発見があり、もともと佐渡の事を知りたくなります。また、「自分も誰かを案内したい。」と思った方は、ぜひ、ガイドの仲間に入りジオパークから見た佐渡の魅力を観光客に伝えてください。ガイド料金は、佐渡ジオパーク推進協議会ホームページ(<http://sado-geopark.com/guide/index/index.html>)をご覧ください。

◆教育委員会社会教育課
ジオパーク推進室(佐渡博物館内)
☎52-2447

